

# テント泊でイワナ釣り・秘境の源流へ

2013年6月

何でもっと早くこんな釣行をしなかったのだろうか？ 憧れの源流域へのテント泊での釣行が実現しました。あえて場所等は全て記しません。初日は5:30に道の駅で合流。私の車で登り口の駐車場へ。時期柄天気が心配ですが、カラ梅雨に期待。今日は何とか降りそうも無い感じ。踏み跡を歩き、その後は川を渡渉しながら遡上する。3時間でテント場に恰好の場所を見つける。早速テントの設営。荷物は置いて、

テント場



ミミズを喰えたイワナ



釣り道具と釣り支度で上流へ釣りあがる。すぐに24CMクラスの塩焼きサイズが釣れる。水が澄んでいるので、こちらの姿で慌てて逃げるイワナも多い。今日は今晚食べる数だけ釣れば良いので気が楽、20CMクラスの小型は釣れても全て再放流する。

溪流を釣り上がります



こんな滝も



## 初日の釣果



大き目の滝壺で同行者が大型を釣る。「尺物」を期待したが 28CM だった。お互いに「尺物」を釣るのが今回の目的の一つだ。2人で16匹も釣ってしまったので、テント場へ早めに戻る。まずは焚火用の木を集める。枯れ木・流木が多いのですぐ集まる。しかも空梅雨で乾いているので火付きは良さそう。釣ったイワナを調理し、早速缶ビールで乾杯！荷が重いと体力低下で大変なので、350MLが一人一缶のみ。川で冷やしたのでとても美味い！後はまたたび酒・果実酒のお湯割りを飲む。塩焼き・刺身・味噌煮のイワナがつまみなので持参した酒が不足。もっと持って来れば良かったと残念がるが「酒屋が」あるわけがない場所なので。アルコール担当の小生としては不覚である。膝・腰が弱ってしまい、ついザックをなるべく軽くしたかったツケだ。日本酒を持ってきて「イワナの骨酒」が妥当だった。大反省！。それにしても風情のある場所だ。虫も少ないし、気温も暑からず・寒からずの場所。焚火の火もすぐ燃えあがった。暗くなる19時過ぎまで話をしてテントで睡眠。翌日は4時半頃から焚火し（暖を取る為で無く）朝飯を食べて6時から釣りあがる。今日こそは「尺物」と願う。今日釣ったイワナは氷が無いので、早めに腹ワタ取って、念のために塩を塗って持ち帰る算段。イワナを食べたがっている知人は多いので数も欲しい。「大イワナ」が棲息していそうな大きな淵が幾つもあるが、なかなか「尺物」は釣れない。昨日引き返した所から先に期待したがとうとう「尺物」は釣れなかった。数的にも昨日と同じ位。午後は降雨もありそうなので、早めに納竿する。テント場に戻り、撤収作業し12:00に帰路へ。増水するとこの川は渡渉を繰り返すので帰れなくなってしまうだろう。

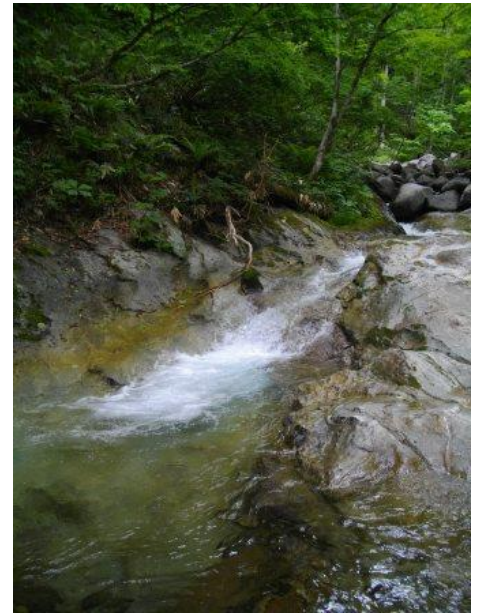
大物がいそう



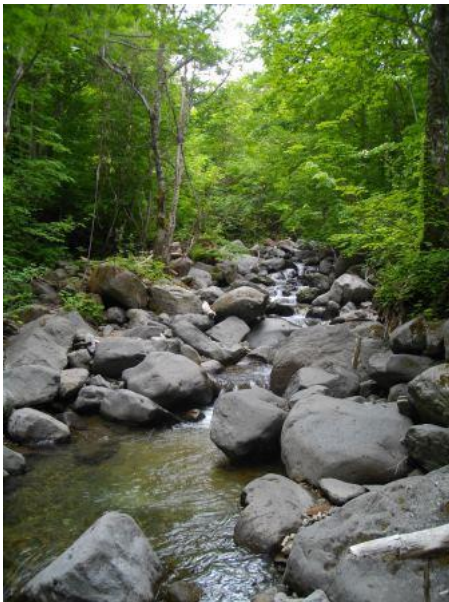
大きな淵です



綺麗な流れ



上流部



1時間で渡渉を終え、隠しておいた靴に履き替えたりしていたら雨が降り出した。雨具を着て踏み跡を駐車場に向けてモクモクと歩く。足元は食べ頃の蕨が沢山あるが雨降りなので採るのは断念。15:00 駐車場に戻り帰路へ。最後は雨にあってしまっ、湿っぽくなったが大自然の中でテント泊でき、引きの強いイワナに元気をもらいました。同行者には大変お世話様になりました。又こんな釣行をしましょう。「男のロマン」

今回の最大のイワナ 28CM

